

溶融・結晶制御技術による産業廃棄物の無害化と有効活用
(中間評価)

質問・意見

回答

E委員	<p>経済効果が9億円とあるが、これはどのようにして算出した金額なのか。発熱量が少ないので、燃料代がかかると思うがそれは計算式に入っているのか。</p>	<p>燃料代は考慮していません。処理してできあがったものの売却額です。また、単なる売却益だけでなく、雇用効果も考慮して研究を進めています。</p>
	<p>発熱量は少ないようであるが、ゴミ発電の可能性等燃焼熱の利用についてはどうお考えですか。</p>	<p>岩手県側の廃棄物は発熱量が極端に低いものだけなので、燃焼熱の利用についてはあまり期待できません。</p>
A委員	<p>扱うものは産廃なのか一廃なのか。また、開発技術のポイントは何なのか今一つ明確でないような感がある。</p>	<p>扱うものは産廃です。一廃については実用化されており、近いうちにJIS化もされます。技術のポイントはカルシウムとシリカの比で溶融温度が推定できるので、そのようなデータを収集し、処理方法として提案していきたいと考えています。また、廃棄物の状態を同定する分析方法も開発していく予定です。</p>
	<p>産廃の一つである「燃えがら」は廃棄物として特に問題はないのですか。</p>	<p>ダイオキシンを含んでいること以外は特に問題にはなりません。また、全部の燃えがらにダイオキシンがあるわけではありません。今後は、「分離」が良いのか、「溶融」が良いのかなどを含めて検討していきたいと考えています。</p>
G委員	<p>廃棄物は品質が悪いが、これを骨材化した場合、問題はないのか。</p>	<p>ハードルはかなり高いが、これができればかなり有用性があります。</p>
		<p>(推進監)：豊島の例を説明してはどうか。</p>
		<p>豊島では廃棄物に土などを混ぜて70tにして60日間の試験をして、処理可能な条件を見つけ出して、県の土木工事に使用しています。本研究ではもっと短い期間で処理可能な条件を見つけたいと考えています。第2クリーンセンター建設の参考となるようなデータを出していきたい。</p>
D委員	<p>フッ化カルシウムをpH調整に使えないか。</p>	<p>使えますが、現場にpH調整に使えそうな廃棄物があるので、わざわざ遠くからフッ化カルシウムを運んでくるメリットはないと思います。 (補足) 溶融温度調整用にフッ化カルシウムは使えますが、中性なのでpH調整には使えません。「温度調整」と「pH調整」を取り違えてしまいました。</p>
H委員	<p>ダイオキシンが発生したり、塩素による炉壁の損傷はしたりしないのか。</p>	<p>その可能性は十分考えられます。ダイオキシン対策はしなければなりません。来年度はダイオキシンの測定もする予定です。また、処理方法によってはダイオキシンが出ない方法もあるので、それも検討していく予定です。炉壁の損傷はコーティング等で対処しなければならないと考えています。</p>
C委員	<p>処理物を路盤材に使おうとすると、なかなか使ってもらえないようだが、その点はどうか。岩手では汚泥等の問題があるので、そのあたりの問題を根本から解決して欲しい。</p>	<p>来年、溶融物がJIS化されるので、路盤材への使用にも弾みがつくと思われます。現実に滝沢村では一般廃棄物から作られたスラグが100%利用されています。汚泥の再利用についても、基礎研究に取り組む予定です。</p>